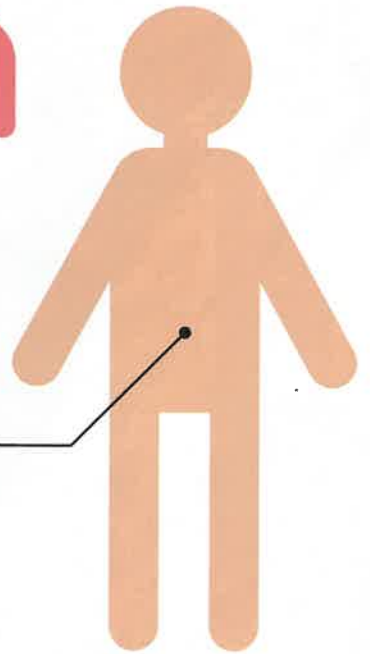


臓器のはなし



今月は **じんましん**

**原因は、実にさまざま
気になったら病院へ**

**薬アレルギーは
カプセルでも原因に?!**

じんましんは、蚊に刺されたような赤い膨らみが皮膚に現れ、かゆみを伴う病気です。発疹が、地図状に広範囲に及ぶ場合も。ほとんどは数十分から数時間で治まりますが、決まった時間に出る場合が多く、1か月以内に症状が落ち着く「急性じん

ましん」と、さらに長期間続く「慢性じんましん」とに大別できます。

原因として最もよく知られているのは、アレルギー反応によるものです。花粉や食物などに対して、過剰に反応して発疹やかゆみが出たりします。ただ、原因を探るためのアレルギー検査でも、異常がなく原因が見つかからない場合も多いそうです。検査項目のアレルゲン(アレルギーの原因となる物質)は代表的なものだけで、それ以外にも原因となり得る物質がたくさんあるのです。

薬もその一つです(薬疹)。何種類も服用していると、一つずつ調べないとわかりません。また薬を包むカプセルだけに反応したり、同じ成分でもメーカーによって異なるなど、原因の特定は大変でしょう。

**喘息から呼吸困難…
放置すると危険**

人間には食物を栄養として吸収する働きが備わっています。この機能に異常があった場合、食物を異物と認識してしまうことがあり、この反応を「食物アレルギー」といいます。その原因が変わっていくケースも

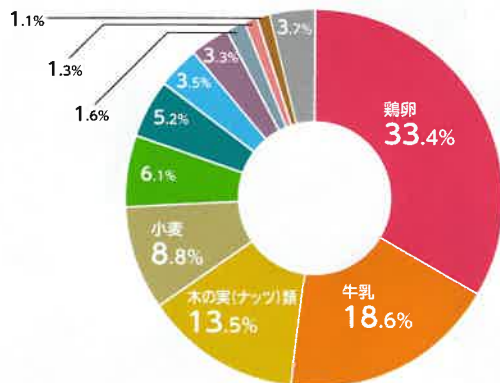
あり、たとえばエビで発疹が出たのに、ある年齢から普通のエビは大丈夫で、干しエビだけに反応する人もいるそうです。物質以外にも、皮膚のこすれや寒冷、日光、入浴や運動時の発汗など、じんましんの原因は多岐にわたるのです(※精神的ストレスによる発症もあります)。

治療としては、原因が判明していれば、それらを避けること。花粉なら、洗濯物や布団を外に干さないなど。特定できなかったり、特定されても避けるのが難しい場合は、抗アレルギー剤などを服用して、一時的に抑え込む対処が多いでしょう。

じんましんは、内臓との関連も否定できません。臓器に異常があったり腫瘍ができると出やすくなったり、肝障害や甲状腺疾患などが発疹を誘発する可能性もあります。ですから、アレルゲンが特定できない場合は臓器に異常がないかを、血液検査などから探っていくのです。

アレルギー反応が重症化すると気管支の粘膜が腫れて喘息になり、呼吸困難になることも。これは命に関わる重篤な事態。気になったら、早めに病院へ行きましょう。

即時型・食物アレルギーの原因



- 落花生
- 魚卵
- 果実類
- 甲殻類
- 魚類
- 大豆
- ソバ
- その他

出典：消費者庁令和3年度食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書

監修

浅海 直
あさうみ すなお
(医療法人社団 平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。